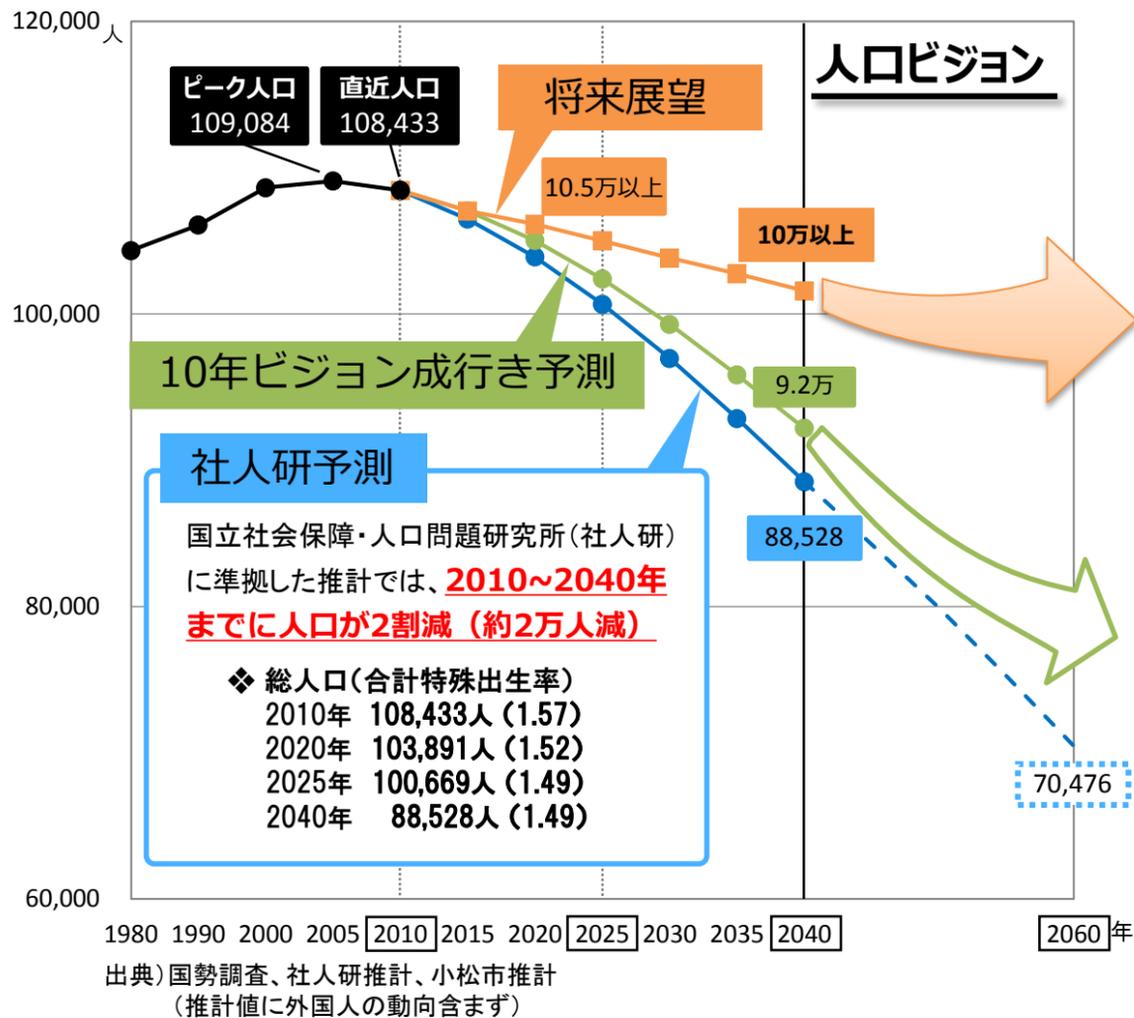


1 2040年人口目標

2010年の国勢調査人口に対して、2040年における人口目標を設定

- ❖ **人口 10万人以上** (成行き予測 9.2 万人程度)
- ❖ **活力人口 5.5万人以上** (成行き予測 4.9 万人程度)
(15~64歳)
- ❖ **20歳未満人口 2万人キープ** (成行き予測 1.6 万人程度)



【小松市における人口減少の主な要因】

- 自然増減の影響 ⇒ 親となる世代が減少していく
(合計特殊出生率が2.07未満)
⇒ 高齢化 (65歳以上が全体の1/4 → 1/3)
- 社会増減の影響 ⇒ 大学進学世代が市外へ転出し
その後、Uターン等での転入戻りが弱い

【人口減少、少子高齢化により】

- 少子高齢化が進む ⇒ 社会保障費の増加、支える家族の負担が増大
- 働く世代が減少 ⇒ 企業活動や消費等の経済的活動が減衰
- 自然や伝統文化の継承、地域コミュニティ等の活動が減衰
- 空き家や空き地の増加、公共インフラの維持負担が増大

2 将来展望

「小松市都市デザイン」で示した2025年のまちづくりの方針を拡大し、「NEXT10年ビジョン(2015~2025)」のもと、こまつ創生により2040年までの人口を展望

NEXT 10年ビジョン

2015年10月【小松市都市デザイン】制定 (2015~2025) (他都市での基本構想にあたるもの)

❖ 都市デザイン **北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」**
「新たなライフスタイルへの変革」と「まちのブランド力向上」に取り組む

- ❖ 2025年人口目標 **10万5千人以上** (成行き予測 10.2 万人程度) **+3,000人以上**
(サブ目標) ・活力人口 (15~64歳) **6万人以上** (成行き予測 5.9 万人程度)
・20歳未満 **2万人キープ** (成行き予測 1.8 万人程度)
・75歳以上 **いきいきシニア率^(※) 75%以上** ※75歳以上で介護認定を受けていない人の割合

2040年の人口をさらに上積みし **10万人以上へ**

10万人以上のため

【自然動態】目標:2040年成行き人口に**+3,000人以上**

- ❖ **合計特殊出生率を2035年に2.10まで向上**
(国、石川県は2.07を目標の最大値としている)

※合計特殊出生率は国より5年以上先行

	(直近) 2020	2025	2030	2035	2040
市将来展望	1.69	1.80	2.10
国ビジョン	1.60	1.80

- ❖ **いきいきシニア率を高め、健康長寿を伸長**

【社会動態】目標:2040年成行き人口に**+5,000人以上**
それぞれの人口を増加

- ❖ **じも恋族** (地元に残り活躍する人びと)
- ❖ **ふるさと回帰** (ふるさとへのUターン)
- ❖ **ようこそ小松** (I・J・移住、外国人ステイ など)

こまつ創生を展開

- ❖ 女性のワーク・ライフ・バランス **UP**
- ❖ 3世代、準3世代住まい **UP**
- ❖ 日本トップクラスの子育て環境 **UP** など

こまつ創生を展開

- ❖ 仕事創出による転入 **UP**
- ❖ 地元への大学進学・就職 **UP**
- ❖ 住みよさを高め、定住・移住・外国人 **UP** など

3 現行 10年ビジョン成行き予測

小松市では地方創生を先取りし、2011年に策定した「10年ビジョン」のもと、社会や時代変化を先読みし、具体的数値目標とPDCAサイクルにより本市の特長とチャンスを活かしたまちづくりを実施

社人研予測より2040年の人口が **約4,000人上振れ**

【自然動態の現状】

❖ **合計特殊出生率の上振れ**
(社人研予測2015年) 1.55 → (市実勢値) 1.69
→2040年人口に**約2,800人上振れ**効果

【社会動態の現状】

❖ **15歳未満人口の転入超過**
社人研予測と比較し、**年間20人程度プラス**
→2040年人口に**約1,200人上振れ**効果